

発行所  
財団法人 日本手芸作家連合会  
〒160-0023  
東京都新宿区西新宿5丁目25番13号  
パラガイハイツ9階C室  
電話 03-3374-3359  
FAX 03-3374-3352

第189号 6月号

- ◆新会長あいさつ
- ◆平成22年度事業計画
- ◆第43回創作手工芸展公募要項
- ◆筆のむくまに 第十七号

新会長挨拶

新たな飛躍の秋とき 大きな志と夢



会長 花村 邦昭

この度、岡谷恭子先生から伝統ある日本手芸作家連合会の会長職を引き継がせていただくこととなりました花村です。

手芸については全くの門外漢ですが、昭和41年の本連合会発足に当たって初代会長を務められた大妻コタカ先生とのお縁もあり、僭越ではございますがお引き受けさせていただきますが、お引き受けさせていただきます。岡谷前会長と同様に宜しくお願いいたします。

大妻コタカ先生の「手芸論」に次の文章があります。

「婦人が手芸を学ぶということ、日常生活の上に自然に女らしさ、優美さを表す基となるものがありまして、女子にとって大切な要素の一つであります。手芸に熟達しますと自から新しい種々の考案をするようになりますから、ただ徒に模倣するだけでなく独創力を養い、尚一面に自分の生活の内容を美化し、又充実させるのに最も役立つものであります。」(『現代手芸全書』昭和15年3月、研文書院発行)。また、手芸の基本である裁縫に関しては次ぎのような記述をなされております。「運針の姿勢は、胸を張り、上体を真直ぐにし、両肘を張り、眼より八九寸離れた高さにし、両手の距離は初めは五六寸より段々多く離して、

熟達するに従って七八寸にし、左右の手を同じように活発に動かすのでございます。」(『裁縫と手芸』昭和2年5月、大興社発行)。

また、日本民芸運動の提唱者である柳宗悦氏も、「手芸」や「手仕事」の大切さについて次のように記しています。「手仕事の優れた点は、多くの場合民族的な特色が濃く現れてくること、品物が手堅く親切に作られることであります。そこには自由と責任が保たれています。そのため仕事に悦びを伴ったり、また新しいものを創る力が現れたりします。それ故、手仕事を最も人間的な仕事と見てよいであります。」(『手仕事』の日本』平成12年3月、岩波文庫)。

「手芸」が単なる趣味や実用の世界の出来事に止まらず、生活内容の美化・充実、あるいは日常における生活態度や姿形の優美さ、自由・責任・悦びや創造力の涵養などにも資する高尚な人間の営為であることがここに示されています。いまわが国では、何を精神的な

支柱とすればよいのかが見えにくくなっております。また人間的豊かさの価値をどこに求めたらよいかについても迷いがあります。そういうなかで、日常に密着し実用的価値だけでなく精神的価値をも幅広く身につけることができる場として、「手芸教室」などがもっと見直されてよいのではないかと思えます。スポーツ教室や理科実験教室をはじめ、親子が共同で参加できる料理教室などもこのところあちこちで盛んなようです。学習塾に通うばかりでなく、心身の健全な発達のために、性別や年齢に係なく集まって学べる「手芸教室」のようなものを求めておられる保護者の方も多いのではないでしょう。そこでは、他と協働することの大切さや、互いに教え合ったり褒め合ったりすることの楽しさなどを学び合うことができるはず。われわれの手芸作家連合会も半世紀余に亘って手芸普及活動に励んで参りましたが、これまでの実績からしても、また掲げる理念からしても、いま本会は新たな飛躍の秋を迎えてようとしていると云ってよいのではないのでしょうか。大きな志と夢をもって本会の更なる発展に私も微力ながら全力を尽くさせていただきます積もりでおります。どうか皆様の変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

平成22年度事業計画

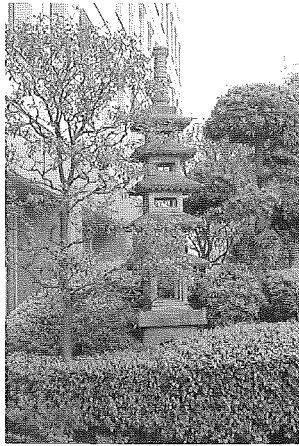
去る3月6日に開催されました理事会・評議員会におきまして、今年度の事業計画案が承認されましたのでご報告いたします。

「寄附行為に基づく事業」

- (1) 手工芸を志す方々の研究成果発表の場として、創作手工芸展を開催する。
  - (2) 研修会として、見学会・講演会・講習会及び勉強会等を実施する。
  - (3) 資格（普通科・高等科・講師・助教・教授）の認定審査を年2回実施する。
  - (4) 支部・教室の新設、新会員の増員を促進する。
  - (5) 機関誌「創作手芸」を発行する他、パンフレット等の出版物を刊行する。
  - (6) チャリティー・バザーの売上等を年末に社会福祉法人NHK厚生文化事業団に寄付し、社会に貢献する。
- 1 創作手工芸展開催について  
第43回創作手工芸展の実施。
  - 2 研修会について（講演会）  
① 日時 平成22年10月25日(月)  
午後3時～4時30分
  - ② 演題 「女性学・男性学」
  - ③ 講師 会長 花村邦昭氏

- ④ 会場 大妻学院興和ビル1階  
資格認定審査について  
今年から資格認定審査を年2回に変更。因みに、第1回目は6月26日(土)に実施。期日が早まったので、注意のこと。
- 4 会員数について  
新法人への移行に向けて、新会員を増やす。
- 5 機関誌の発行について  
機関誌を年2回発行。
- 6 社会福祉活動について  
創作手工芸展の会期中にチャリティー・バザーを行い、収益金を社会福祉団体（NHK厚生文化事業団）に寄付。

第43回創作手工芸展  
「新風」  
上野の森から千代田の森へ  
(副会長 石井とめ子)



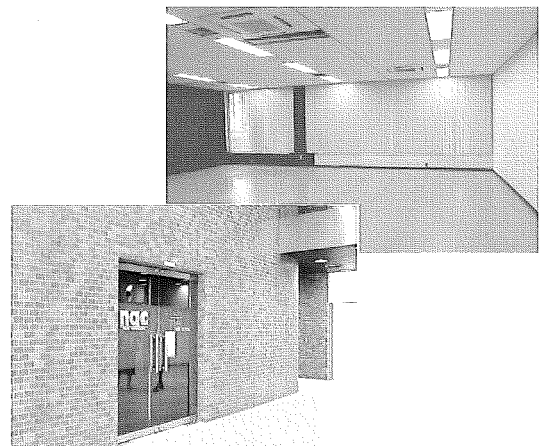
平成22年度、第43回創作手工芸展は東京都美術館の大規模な改装工事に伴い、平成二十二年度より

二年間休館します故、本年は上野の森から千代田の森へ。  
大妻学院の千代田キャンパスで開催することになりました。  
この地は本会の創設にご尽力をいただいた大妻コタカ先生の手工芸教育の発祥の地でもあります。  
大妻学院理事長・本連合会会長 花村邦昭氏の御好意により、来年度改定予定の興和ビル1階を借用できました。  
展示スペースは都美術館会場の二倍もの広さがありますので多くの出品が可能です。



興和ビルと会場風景

会場では、技術の伝承をデモンストレーションによって公開すると同時にチャリティー即売所にて作家の手作り品も購入できます。



本年は多くの方々に参加できるよう、また「新風」と共に出品料を下げました。  
手工芸を志す方の日ごろの成果が存分に発表できる場としご活用を希望します。  
美術の秋のひと時を、ゆっくりご鑑賞いただき、出品作を通して手工芸の向上発展並びに諸作家の先生方との交流がより深まることを期待しております。

第43回創作手工芸展  
「新風」募集要項

第43回創作手工芸展「新風」の  
出展作品を左記の要領にて募集いたします。

- (1) 募集作品  
未発表の手工芸作品

- (2) 募集期間  
平成22年9月27日(月)～  
9月30日(木)
- (3) 応募費用
  - ① 会員 8千円
  - ② 一般 一万円
  - ③ 学生 5千円
 ※ 本連合会のゆうちょ銀行指定口座へ送金のこと。  
郵便振替口座番号  
00100・5・85006
- (4) 出品手続  
所定の申込書に必要事項を記入の上、作品の写真(カラー・ハガキ大)を2葉添えて事務局に送付。
- (5) 作品規格
  - ① 壁面(屏風含む)・平面・立体共に180cm×180cm以内  
行き90cm以内
  - ② 重量(木枠含む)50kg以内
  - ③ 破損しやすいもの・生木・生花不可
- (6) 搬入・搬出
  - ① 搬入・搬出先  
〒102・8357  
東京都千代田区三番町8  
大妻学院興和ビル1階
  - ② 搬入日時  
平成22年10月7日(木)～  
8日(金) 午前10時～午後  
4時
  - ③ 搬出日時  
平成22年10月27日(水)
- (7) 審査期日  
平成22年10月11日(祝日)
- (8) 審査員  
日本美術院同人、評議員  
大矢 紀先生  
日本女子大学教授  
小笠原小枝先生  
元文部省視学官 高部和子先生  
漆芸作家 田口義明先生  
文化女子大学教授 林 泉先生  
多摩美術大学教授 鶴岡真弓先生
- (9) 賞
  - 文部科学大臣賞・東京都議会議長賞(予定)・大妻コタカ賞・日本手芸作家連合会長賞・審査委員長賞・新人賞・奨励賞・佳作・特別賞(協賛会社)
- (10) 授賞式・祝賀会
  - ① 期日 平成22年10月26日  
(火)午前11時～  
午後2時
  - ② 会場 大妻学院興和ビル  
1階
  - ③ 会費 5千円
- (11) 出品等の問い合わせ先  
事務局電話番号  
03(3374) 3359  
ファックス番号  
03(3374) 3352  
メールアドレス  
info@syugei-sakka.jp

### チャリティ作品募集

創作手工芸展におけるチャリティ作品を募集しております。今年は大きく展開することが可能ですので会員の皆様の多大なるご協力をお願い申し上げます。随時受け付けいたしますので、事務局へお送りください。お待ちしております。  
(チャリティ担当 浅野・木嶋)



いつも賑わいのチャリティ

### 投稿コラム募集

皆様との交流の場として、広くコラムを募集致します。エッセイ・俳句・絵画その他趣味・熱中していることなど、短くまとめて多くの方々に発信しませんか。コラムを通して、皆様の友好の輪が広がりますようにと常時投稿をお待ちしております。

☆ 俳句は初心ですが、わたしの「癒しの時間」です。  
朝夕に川見る暮らし初つばめ

船旅のラストダンスに夏惜しむ  
夏行くやカクテルの名は地中海

石井登女(とめ子)

☆ 私の大好きなシャンソンをご紹介させていただきます。シャンソンとは、フランスの歌ですが、詩には、愛とか恋が主流で、表現方法は人さまざまです。現実の哀愁あふれる自然なるシャンソン。文学的シャンソンも数多くあり、最も好まれていたメランコリックな甘い切ない歌が多いように思います。ではその詩をちょっとご紹介いたします。

ミラボー橋 作曲レオ・フェレ

作詞ギヨーム・テポリネール

訳詞 堀口大樹

ミラボー橋の下をセーヌ河が流れる  
我等の恋が流れている

私は思い出す

悩みの後には楽しみが来ると云う

日が暮れて鐘がなり

月日が流れる 私に残る...

すてきな詩がまだまだ続きます。

皆様も手を休めて、聴いてみて下さい。心やすまり素敵な時が流れます。  
庄子 悦子

〔今回初めての試みですので、身近な方々にお問い合わせしました。〕

(係)

筆のむくままに

第十七号

渴望の思いが進歩を支える

株式会社 東京堂

代表取締役社長 鈴木 勝美

この度は日本手芸作家連合会様の『創作手芸』に拙文掲載の榮譽を頂戴し厚く御礼申し上げます。

弊社東京堂は日頃、フラワードザイン(FD)界のお客様にアーティフィシャルフラワー、ドライフラワー、プリザーブドフラワー等の花々と共に各種資材をご提供させて頂いており、貴連合会会員の皆様のご愛顧にも与っております。

弊社は「手工芸の発展は豊かな生活文化を象徴する」との考えから、弊社ミッションを「花のある暮らしを応援します」と定め、FD界の先生方が、自由な気風で創作に励まれ個々の世界を広げる活動をされますよう、一業者としてFD界の発展に微力を尽くす心得を持って、事業に精を出し取り組んでおります。

ここで浅学ながらFDの世界を紐解くならば、FDは早くも古代文明において萌芽し、時代と共に世界各地で数々の時代様式が認められるほどに発展し今日に至りました。日本でも、四季折々の気候

風土のもと独自の生け花文化が花開きました。これら花文化の興隆は、各方面で創作活動を続けてこられた先生方の熱い思いと着実な実践を思わずに語ることは出来ません。もとは一個人が執念とも例えられる創作によりデザインを発祥、門人を育成し次第に流派となり創作の幅を広げ、また集団として大成された先生方の数多の例はここに掲げるまでもありません。

翻って現代、新たにFDを学ぶ生徒さん方は、既に確立されたきらびやかで重厚な創作を、有る意味で手軽に学習できる環境にあることから、先人が度重なる実習の中で培ってきた技能や作風を最初からあるがままに採り入れて自らの作風に活かすことができるという意味で、誠に恵まれていた時代になったように思います。

弊社におきましても、作家の先生方個々にお教えを授かり、創作上必要とされる表現を具体化するにはどういう資材が必要なのか、どういう工夫を採り入れるべきか、また技術上の課題を解決すること等々、「門人の精神」をもって同じ空気を呼吸し、研究、学習させて頂きここまで来たことが今日、弊社の社風に活かしているように思っています。ところが若手社員は、当然ではありませんが、かつて難難辛苦の中で作家の先生に習って具

体化してまいりました資材を、最初から存在しているものとして取り扱うことになりまので、今後とも作家の先生に、かつてと同じく「門人の精神」をもって仕える業者として、人材育成に新たなひと工夫の必要性を感じるが多くなっております。

今日、多くの国々で国民が高い経済的、文化的水準の生活を享受する中、何でも手軽に入手できることは便利であり好ましいことに違いありません。しかしその一方で「必要は発明の母」の格言の如く「渴望する思いが進歩を支える」の意味合いで「満たされぬ表現への想い(執念)が誰も見たことのない創作に誘う」と、敢えて言い直し私自身これを脳裏に留め、今後も作家の先生方に習い、またその気概を若手に伝え、弊社に好ましい社風を涵養しFD界の発展に努めてまいりたいと考えております。

役員人事について

先の理事会・評議員会におきまして、以下の人事が承認されましたので、ご報告いたします。

(1) 会長

①花村邦昭氏(新任)

〔任期：平成22年3月6日〕

平成22年9月19日

②岡谷恭子氏(退任)

〔平成22年1月20日付〕

(2) 監事

①岡村紀彦氏(新任・再任)

〔任期：平成22年3月6日〕

平成24年5月10日

②中島祐二氏(再任)

〔任期：平成22年5月11日〕

平成24年5月10日

③花村邦昭氏(退任)

〔平成22年3月5日付〕

(3) 参与

①鈴木正太氏(新任)

〔任期：平成22年4月24日〕

平成23年4月23日

②山見博康氏(新任)

〔任期：平成22年6月5日〕

平成23年6月4日

(4) 顧問

①滝本晴男氏(退任)

〔平成22年3月31日付〕

(財)日本手芸作家連合会

TEL 03(3374)3359

FAX 03(3374)3352

メールアドレス

info@syugei-sakka.jp

URL

http://www.syugei-sakka.jp

郵便振替口座番号

00100・5・85006